

氏名 しも かわ み 佳 助教



主な研究テーマ

□ 剣道の稽古を通じて、剣道を正しく理解し、実践、指導することで、稽古法及び指導法の研究を行っております。特に、剣道の踏み込み動作によって発生する「踏み込み音」に着目した研究です。

平成29年度の研究内容とその成果

私の専門領域である剣道は、「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」を理念に掲げ、「わざ」と「こころ」の事理一致による修錬を通じて、真の自己のあり方を求める修行です。剣道では、自得・体得が基本ですが、この大きな目標に対して、同じように「道」を志す学生とともに、日々精進しているところです。

授業や部活動を通じた稽古法や指導法の研究と実践により、学生の剣道技術向上に努めております。

具体的な研究内容については下記の通りです。

- ◆ 剣道における踏み込み方により踏み込み音の違いを客観的に検知できるかについて実験的に検討しました。その結果、踏み込み方によって踏み込み音が異なる可能性が明らかとなりました。【剣道における踏み込み音の客観的検知の可能性－踏み込み方により踏み込み音の違いを客観的検知できるか－】
- ◆ 剣道における打撃動作に伴って発生する打撃音と踏み込み音との関係性から、

それらの複合した音（打撃音＋踏み込み音）について実験的に比較検討しました。その結果、200Hzから500Hzまでの周波数帯においては、試技条件（①打撃のみ、②踏み込みのみ、③打撃＋踏み込み）によって、振幅スペクトル量が異なることが明らかとなりました。また、音の大きさにおいては、複合した音（打撃音＋踏み込み音）と踏み込み音で差がないことが明らかとなりました。これらのことから、打撃動作に伴って発生する音は、踏み込み音の影響を受けている可能性が考えられました。【剣道における打撃音と踏み込み音およびそれらの複合音の相違－女子大学生剣道競技者1名による試技から－】

以上の本研究により、これまで注目されることの少なかった「踏み込み音」に関する研究への手がかりとなる研究成果を得ました。なお、これらの研究は、JSPS科研費JS17K13140若手研究（B）の助成を受けたものです。

これからの研究の展望

今後も日々の稽古の中で、「わざ」と「ところ」を磨き、体験を活かした稽古法及び指導法の研究と実践を行って、現場に還元できるようにさらに研究を進めたいと考えております。また、剣道は世界大会も実施されており、国際的に普及しつつあります。これらの研究成果が、更なる剣道の普及と正しい剣道の伝承・継承に役立つよう、国内はもちろんの事、海外にも発信していきたいと考えます。

今後の具体的な研究内容については下記の通りです。

◆ 剣道の打撃動作に伴って発生する打撃音と踏み込み音との関係を明らかにすることを目的として、打撃音、踏み込み音およびそれらの複合音（打撃音＋踏み込み音）との相違について検討します。以前の研究との違いは、対象者の人数です。予測される結果は、打撃音が踏み込み音や複合音よりも小音であること、打撃音と踏み込み音および複合音では構成する周波数帯の振幅スペクトル量が異なることなどが考えられます。また、複合音はヒトの聞き取りやすい周波数帯の振幅スペクトルを大きくする可能性も予測されます。本研究の内容は、剣道の打撃動作に伴う音に関する研究への手がかりとなり、審判者が打撃を評価する際に有用な研究成果と捉え研究を進めております。なお、本研究は、JSPS科研費JS17K13140若手研究（B）の助成を受けたものです。

◆ 剣道における踏み込み音の違いが、打撃における強さと冴えの評価に及ぼす影響を探るため、踏み込み音を可変した映像資料を用いて、評価テストを実施したいと考えています。これまで、踏み込み音と打撃における強さと冴えの評価の関係性は明らかになっていません。現段階では、踏み込み音の違いは、打撃の強さや冴えの評価に影響を及ぼすとの結果を予測しております。また、本研究を進めことで、打撃者の踏み込み音に対する工夫や審判者の打撃を評価する際の手がかりとなることを期待しています。なお、本研究は、JSPS科研費JS17K13140若手研究（B）の助成を受けたものです。